

令和7年度京都大学公共政策大学院

入学試験問題（一般選抜）

科目名：経営学

この表紙の次には、「経営学」の試験問題が1ページある。

答案用紙2冊を配付するので、1冊に書ききれない場合は2冊目を用いて解答すること。

2冊とも、所定の欄に科目名を記入し、科目名の横に①、②と記載すること。答案用紙はすべて提出すること。

科目名 経営学

以下の問題すべてに解答しなさい。

問題1 次の文章を読み、以下の問い全てに解答しなさい。解答の冒頭に番号を必ず明記すること。

「参加型・支援型のリーダーシップの研究者は、従来型のリーダーシップが個人に頼りすぎていると問題視している。(中略)従来型リーダーの研究では有能な個人の特性や能力、働きに注目しているが、個人の価値観で意思決定することや上意下達であることは前提条件となっていた。そこでは、リーダーの動機付けが利己主義的であることも暗に認められてきた。そもそもリーダーの機能は、目的達成のために組織やチームをまとめて動かすことにある。だがリーダーがあまりに強い利己主義を示した場合、社員も会社も本当についていくだろうか。参加型・支援型のモデルはこうした反省から、フォロワーシップ研究と関連して、従業員視点に立つ水平的なリーダーシップのあり方を示そうとしている。」

(出所：『日本経済新聞』2019年4月12日朝刊、27頁)

- (1) リーダーシップ論において、リーダーの行動特性について議論した代表的な考え方について述べなさい。
- (2) フォロワーシップとは、どのような考え方であるかについて述べなさい。
- (3) 参加型・支援型リーダーシップの代表的なものについて述べなさい。
- (4) 従来からの有能な個人のあり方に関するリーダーシップ論は、参加型・支援型のリーダーシップ論と比べると、どのような意味で利己的な考え方と見られるのかについて説明しなさい。

問題2 リレーションシップ・マーケティング(関係性マーケティング)とは何かについて述べなさい。そして、これはどのような場合に効果的であるかについて説明しなさい。

問題3 以下の問いから1問を選択し、解答しなさい。解答の冒頭に選択した番号を必ず明記すること。

- (1) イゴール・アンゾフの企業成長のベクトルの議論に従うと、多角化とはどのような戦略であるのかについて、他の3つの戦略と比べながら説明しなさい。
- (2) 企業が多角化をする際には、事業間でのシナジーはどのようにしたら起きるのかについて説明しなさい。